



# 学校だより

4月号

令和 5 年 4 月 6 日  
足立区立舎人第一小学校  
校長 濫谷 あゆみ

## すべてが楽しかった！

新しい年度が始まりました。昨年度の後、3月24日(金)に79名の卒業生が巣立っていきました。式が終わるまでは涙を流すまいと誓っていたのですが、6年生の心のこもった門出の言葉と素晴らしい歌に心打たれ、とめどなく涙がこぼれてしまいました。門出の言葉のどこが琴線に触れたのかと後から考えてみたら、「いろいろなことがあったけれど、6年間のすべてが楽しかった!」という言葉だったのだと思い至りました。

言うまでもなく、生きていくことは楽しいことばかりではありません。つらいこと、面倒なこと、悲しいこと、悔しいことの方が圧倒的に多いと思います。生きていくのは楽しいなんて、大人だってなかなか言えないのに、自信をもって「すべてが楽しかった!」と言えた子どもたち。なんて素敵なおもちゃなのだろうと。卒業生から大切なことを教わりました。

さて、令和4年度と5年度、本校は東京都の人権尊重教育推進校の指定を受け、例年に増して力を入れて人権教育に取り組んでいます。研究主題は「自分も人も大切にする子どもの育成」です。人を大切にするにはまず、自分を大切にしなければなりません。そこで、昨年度1年間、「自分を大切にする子どもとはどのような子どもだろうか」と教員の間で議論を進めてきました。「自己肯定感の高い子どもが自分を大切にする」「子どもは褒められたときに自己肯定感を高められる」との考えを基に、自己肯定感が高まるように、様々な場面で子どもたちが周りの人たちから「褒められる」場面を増やせるよう、授業や学校生活の中で意識して取り組んできました。しかしその研究を進めていくうちに、褒めて自己肯定感を高めるだけでは、必ずしも自分を大切にするに繋がらない、という現実突き当たりました。また、教育の究極の目標である「人格の完成」という点でも課題が見えてきました。それは、自分自身を振り返ることなく、周りのせいばかりしてしまう子どもが多くいるという現実です。

そこで今年度は軌道修正して、子どもたちが「自分自身を見つめ、きたえる」ということを重視していきたいと考えています。自分という人間を客観視することにより、自分の強みと弱みが分かる。その強みには自信をもち、弱みに対しては周りが叱るのではなく、自分自身で鍛えられるようになってほしいと願っています。

これだけでは抽象的でイメージがわきにくいかもしれませんが、この4月からいろいろな具体的な取組を始めます。例えば、子どもたちは自分で次の日の持ち物を忘れずに準備しなければなりません、どうしても忘れ物をしてしまいます。そのとき、忘れ物を届けてくださった保護者に対して「なんで(ランドセルに)入れ忘れたんだよ!」と親に怒る子どもたちが少なくないのです。そういう子どもたちに対して、忘れ物したのは保護者のせいではなく、忘れた自分が悪いと思えるようにするところから指導していきます。授業は、はじめから全て先生がつくってくれるものではありません。自分が道具をそろえて準備するところから始まります。これができるようになったら、次のステップへ進みたいと思います。

今年度は「人のせいにしないで、自分自身を見つめ、自分を鍛えられる子」の育成に向けて、ご家庭でも一緒に歩みを進めていただきたいと思います。そして来年の3月には、どの学年の子どもたちも今年1年間の「すべてが楽しかった!」と振り返ることができるよう「チームとねいち」の教職員一丸となって頑張ります。